

利尻山での携帯トイレに関するアンケート結果

住川慶英（北海道大学農学部）

1. はじめに

利尻山のある利尻富士町・利尻町ではトイレ問題対策として2000年に携帯トイレの無料配布（2006年からは400円で販売）を始められました。そして携帯トイレの周知だけでなく、登山口に使用済み携帯トイレ回収ボックスや登山道に携帯トイレ用ブースを設置されるなど、携帯トイレの使用しやすい環境作りを積極的に行なっておられます。

今後の携帯トイレの普及活動のために現在の携帯トイレの普及状況を把握することは重要ではないかと考えました。そこで携帯トイレの認知・所持・使用についての実態を把握するために、2008年の夏に利尻山で登山者の方に携帯トイレに関するアンケート調査を行なわせて頂きました。その結果をこの場をお借りして報告させていただきます。

アンケートの配布は登山者の多い7月に、約90%の登山者が利用する鴛泊コースの登山口で行ないました。有効回答枚数は385枚でした。

2. 登山者の概要

表1. 性別（単位：人）

	人数	割合
男性	249	65%
女性	136	35%

表2. 利尻山の登山回数（単位：人）

	人数	割合
1回目	317	82%
2回目以上	68	18%

表3. 居住地（単位：人）

	人数	割合
道外	273	71%
道内	111	29%

表4. 年齢（単位：人）

	人数	割合
60代以上	139	36%
50代	91	24%
20代以下	58	15%
40代	53	14%
30代	44	11%

表5. グループ（単位：人）

	人数	割合
友人・家族	201	52%
サークル・山岳会	84	22%
一人	65	17%
登山ツアー	33	9%

まず利尻山の登山者の概要です。表にはしていませんが、日程は日帰りの登山者が379人で、登山コースは鴛泊コースを往復していた登山者が372人でした。

以上から利尻山の登山者は北海道外からの中高年登山者が多く、そのほとんどが利尻山に登るのが初めてで、日帰りで鴛泊コースを往復していると考えられます。

3. 携帯トイレの普及状況

(1) 周知状況

利尻山で携帯トイレの利用を推進している事を知っていたか尋ねました。また「知っていた」と答えた登山者に、携帯トイレの情報を知った時期とその情報源を尋ねました。

表6. 携帯トイレの周知状況 (単位: 人)

	人数(人)	割合
知っていた	366	95%
知らなかった	19	5%

表7. 知った時期 (単位: 人)

利尻島来るまで	292
利尻島に来てから	74
無回答	19

表8. 情報源 (単位: 人)

他の人から伝え聞いた	90
書籍・雑誌	84
利尻島の宿泊先	64
ポスター・パンフレット・リーフレット	44
その他	18
登山口の管理人	17
覚えていない・よく分からない	7
登山用品店	6

366人の登山者が推進情報を「知っていた」と答えており、利尻山では携帯トイレを使用しなければならないという認識が登山者に広まっていると言えます。また知った時期は「利尻島に来るまでに知っていた」が292人で、全登山者のうちの76%が利尻島に来るまでに利尻山の携帯トイレの情報を知っていたことが分かりました。また情報源としては「両町のホームページ」が最も多く、登山者が利尻山の登山情報を事前に調べていると推測できます。両町のホームページで携帯トイレの使い方などを紹介することで登山者の携帯トイレへの理解が深まるのではないのでしょうか。次に「他の人から伝え聞いた」が続きました。“他の人”にはガイドさんも含まれていると思われませんが、登山仲間からの口コミが大きな役割を果たしていると考えられます。

(2) 所持状況

次に今回の登山で携帯トイレを所持していたか尋ねました。そして携帯トイレを「自分で持っていた」と答えた登山者に対して携帯トイレをどこで入手したか質問しました。

表9. 携帯トイレの所持状況 (単位: 人)

	人数	割合
自分で持っていた	282	73%
持っていなかった	84	22%
グループの他の人が持っていた	19	5%

表10. 入手場所 (単位: 人)

利尻島内の宿泊施設	158
登山用品店	39
自宅にあった	34
利尻島内のキャンプ場	18
その他	10

携帯トイレを「自分で持っていた」のは 282 人でした。また「自分で持っていた」登山者の 75%が利尻島内で購入していました。このことから携帯トイレの情報は利尻島に来るまでに知っているが、購入するのは利尻島に来てからという人が多い事が分かります。また登山者の携帯トイレ入手場所としては「利尻島内の宿泊施設」が最も多く、「利尻島内の宿泊施設」は携帯トイレの販売場所として大きな役割を果たしていると考えられます。

(3)使用状況

登山中に「用を足した」登山者 180 人に携帯トイレを使用したか尋ねました。そして携帯トイレを「使用した」と答えた登山者へ携帯トイレ用ブースを使用したか質問しました。また「用を足した」が携帯トイレを「使用しなかった」登山者にはその理由を尋ねました。

表 11. 携帯トイレの使用状況（単位：人）

	人数	割合
使用した	127	71%
使用していない	53	29%

表 13. 携帯トイレを使用しなかった理由（単位：人）

小便では不要だと思ったから	31
携帯トイレを所持していなかったから	21
使用済み携帯トイレを持ち歩きたくなかったから	8
ブースが込んでいた・汚れていたから	5
その他	13

表 12. ブースの使用状況（単位：人）

鴛泊コース避難小屋	58
鴛泊コース 6 合目	46
鴛泊コース 9 合目	37
ブースを使用していない	10
杓形コース避難小屋・8.5 合目	0

携帯トイレを「使用した」のは 127 人でした。これは用を足した登山者の 71%に当たります。また携帯トイレ用ブースは鴛泊コース避難小屋が最も使用されていました。携帯トイレを使用しない理由は「小便では不要だと思ったから」が最も多く、この選択肢を選んだ登山者の 90%が男性でした。

(4)登山者の属性の違いによる携帯トイレの普及状況の違い

表 14. 所持率・使用率の高い登山者の属性

登山者の属性	所持率	使用率
ツアー登山者	85%	94%
女性登山者	83%	92%
携帯トイレの所持経験のある登山者	82%	84%

表 15. 所持率・使用率の低い登山者の属性

登山者の属性	所持率	使用率
単独登山者	68%	43%
男性登山者	68%	56%

全登山者の所持率：73%、使用率 71%

所持率＝自分で携帯トイレを持っていた÷全登山者、使用率＝携帯トイレを使用した÷用を足した登山者

登山者の属性によって携帯トイレの普及状況に違いがありました。「ツアー登山者」が所持率・使用率が高いのはガイドさんが登山者に携帯トイレの使用を熱心に勧めておられるからだと考えられます。一方、「男性登山者」は所持率・使用率が低い上に人数も249人と多いことから、山へのインパクトの大きな属性であると考えられます。また、「単独登山者」は65人だったのですが、その89%が男性でした。

表 16. 登山者の行動別での分類（単位：人）

	用を足した		用を足していない	小計
	携帯トイレを使用した	携帯トイレを使用しなかった	携帯トイレを使用しなかった	
携帯トイレを所持していた	121	26	135	282
携帯トイレを所持していない	6	27	70	103
小計	127	53	205	385

4. 最後に

アンケートの結果から利尻山では携帯トイレの情報を知っている登山者の割合が95%、所持率が73%、使用率が71%であることが分かりました。このことから利尻山では携帯トイレの普及が広まっていると言えるのではないのでしょうか。しかし携帯トイレの情報について知っていたにもかかわらず、携帯トイレを所持しない、使用しない登山者もいます。また、男性登山者のように携帯トイレの所持及び使用につながっていない属性もあります。したがって、このような登山者に対して、携帯トイレの普及を進めて行くことが今後の課題であると考えています。